

没後50年 一濠端の散策者— 「ノエル・ヌエット」展

会期:2019年10月5日(土)~12月22日(日)

会場:< GAS MUSEUM がす資料館>ガス灯館2階「ギャラリー」

ごあいさつ

GAS MUSEUM がす資料館では、2019年度第三回企画展として、2019年10月5日(土)から12月22日(日)までの期間、「没後50年 -濠端の散策者- 『ノエル・ヌエット』」展を開催します。

大正15年(1926)に初めて来日した、詩人でもあるノエル・ヌエット氏は、昭和37年(1962)にフランスへ帰国するまでの30年以上もの間、フランス語の教鞭をとるかたわら、戦前戦後の東京の街を歩いて多くのスケッチを残しました。作品は絵葉書や版画として人々の目を楽しませ、詩にうたわれたその風景は、描かれたスケッチとともに書籍にまとめられました。

東京の風景のなかでも、皇居のお濠端の風景を好み、お濠端を散策して数多くのスケッチを描き、版画にも取り上げられています。また戦後、お濠端のスケッチと皇居についての随筆や詩をまとめた書籍「宮城環景」からは、氏が好んだお濠端の風景を知ることができます。

今回は、本年が没後50年に当たる氏のスケッチを元に制作された版画と対比する現在の風景写真、なかでも皇居お濠端の風景を取り上げた作品を、画集や書籍、絵葉書などとあわせ、一外国人が見続けた戦前戦後の東京の風景の移りかわりなどを紹介します。

GAS MUSEUM がす資料館

■展示作品一覧

【展示解説】

学芸員 高橋 豊

〈ノエル・ヌエット氏 略歴〉

1885年(明治18) 3月30日

フランス北西部ブルターニュ地方のモルビアン県ヴァンヌ市北方に位置するロクミネで、医者である父アンジュと母マリの長男として生まれる。

1910年(明治43) 25歳

処女詩集「葉がくれの星」を出版。詩人としての活動の傍ら、滞仏中の日本人との交流を持つ。

1926年(大正15) 41歳

旧制静岡高等学校講師として来日。

1929年(昭和4) 44歳

一旦帰国するも、翌年に再び来日して東京外国語学校講師に就任。

その後東大、早大、アテネ・フランセなどで教鞭をとる傍ら、滞日中に東京各所をまわり、その風景をスケッチや詩にうたい、詩や随筆、画集を著す。

1962年(昭和37) 77歳

帰国してパリに居住。

1965年(昭和40) 80歳

東京都名誉市民となる。

1969年(昭和44) 9月30日

パリで死去。享年84歳

【版画「東京風景」刊行経緯】

ヌエット氏は、旧制静岡高等学校時代の教え子の実家である、土井版画商より木版の刊行を打診され、喜んで承諾しました。

ペン画を木版画で表現するためには、板上にすべての線を写し取る必要があり、何週間も費やし、彫り師を悩ませました。

まず、作品「桔梗門」と「増上寺」を一色で刷り上げました。その後、版元は作品に色を加えることを決め、合計二十四点の木版画に仕上げました。

価格は一枚三円で昭和11年(1936)3月より毎月二枚ずつ一年をかけて発行され、後に刊行作品を帙(ちつ)にまとめて販売もされました。

【書籍 宮城環景】

ヌエット氏が愛し、これまでも何度もスケッチをしてきた、皇居のお濠を描きまとめた二十八景の画集です。取り上げられた場所はすべて内濠の風景で、その内、皇居南側の桜田門から三宅坂上にかけての風景が11カ所と、全体の約4割を占めており、氏のお気に入りの場所がわかります。また書籍では英語・仏語・日本語のコメントがつき、氏による宮城の説明、お濠について詠んだ詩が掲載されています。日本語訳は全て山内義雄氏によるもので、この画集は山内氏から永井荷風氏に渡り、荷風氏は好意的な文章を残しております。



1) 東京風景 桜田門
ノエル・ヌエット
1936年(昭和11)



28) 桜田門枅形
「書籍 宮城環景」より
ノエル・ヌエット
1947年(昭和22)

- 2) 東京風景 馬場先門
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)
- 3) 東京風景 桔梗門
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)
- 4) 東京風景 靖国神社
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)



- 5) 東京風景 弁慶堀
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)
- 6) 東京風景 日比谷
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)
- 7) 東京風景 黒門
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)
- 8) 東京風景 赤坂見附
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)
- 9) 東京風景 紀尾井町
ノエル・ヌエット 1937年(昭和12)
- 10) 東京風景 御茶の水
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)
- 11) 東京風景 両国橋
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)
- 12) 東京風景 増上寺
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)
- 13) 東京風景 浅草寺
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)
- 14) 東京風景 亀戸
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)
- 15) 東京風景 上野公園
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)
- 16) 東京風景 不忍池
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)
- 17) 東京風景 歌舞伎座
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)
- 18) 東京風景 明治神宮
ノエル・ヌエット 1937年(昭和12)
- 19) 東京風景 芝古川
ノエル・ヌエット 1937年(昭和12)
- 20) 東京風景 隅田川
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)
- 21) 東京風景 池上本門寺
ノエル・ヌエット 1937年(昭和12)
- 22) 東京風景 日本橋
ノエル・ヌエット 1936年(昭和11)

- 23) 東京風景 井之頭公園
ノエル・ヌエット 1937年(昭和12)
- 24) 東京風景 神楽坂
ノエル・ヌエット 1937年(昭和12)
- 25) 東京風景 目録
ノエル・ヌエット 1937年(昭和12)
- 26) 東京 神田明神
ノエル・ヌエット 1950年(昭和25)
- 27) 書籍 宮城環景
ノエル・ヌエット 1947年(昭和22)
- 29) 桜田門
ノエル・ヌエット 「書籍 宮城環景」より 1947年(昭和22)
- 30) 桜田門(側面)
ノエル・ヌエット 「書籍 宮城環景」より 1947年(昭和22)
- 31) 第一生命ビル
ノエル・ヌエット 「書籍 宮城環景」より 1947年(昭和22)
- 32) 日比谷附近
ノエル・ヌエット 「書籍 宮城環景」より 1947年(昭和22)
- 33) 宮城全景
ノエル・ヌエット 「書籍 宮城環景」より 1947年(昭和22)
- 34) 近衛師団営舎 牛ヶ淵
ノエル・ヌエット 「書籍 宮城環景」より 1947年(昭和22)
- 35) 九段
ノエル・ヌエット 「書籍 宮城環景」より 1947年(昭和22)
- 36) 雪景
ノエル・ヌエット 「書籍 宮城環景」より 1947年(昭和22)
- 38) 静かなる夕
ノエル・ヌエット 「書籍 宮城環景」より 1947年(昭和22)
- 39) 三宅坂附近
ノエル・ヌエット 「書籍 宮城環景」より 1947年(昭和22)
- 40) 濠端展望
ノエル・ヌエット 「書籍 宮城環景」より 1947年(昭和22)
- 41) 柳の井戸
ノエル・ヌエット 「書籍 宮城環景」より 1947年(昭和22)
- 42) 辨慶堀
ノエル・ヌエット 「書籍 宮城環景」より 1947年(昭和22)
- 43) ふたたび桜田門に帰って
ノエル・ヌエット 「書籍 宮城環景」より 1947年(昭和22)



- 44) 二重橋
「書籍 宮城環景」より
ノエル・ヌエット 1947年(昭和22)
- 46) 丸の内より神田へ
ノエル・ヌエット
- 45) 大手門
「書籍 宮城環景」より
ノエル・ヌエット 1947年(昭和22)
- 「書籍 宮城環景」より
1947年(昭和22)

- 47) 竹橋門
ノエル・ヌエット
- 48) 平河門
ノエル・ヌエット
- 49) 平河門遠望
ノエル・ヌエット
- 50) 本丸
ノエル・ヌエット
- 51) 忘れし門
ノエル・ヌエット
- 52) 田安門
ノエル・ヌエット
- 53) 乾門
ノエル・ヌエット
- 54) 北眺橋
ノエル・ヌエット
- 55) 三番町より半蔵門へ
ノエル・ヌエット

- 「書籍 宮城環景」より
1947年(昭和22)
- 「書籍 宮城環景」より
1947年(昭和22)
- 「書籍 宮城環景」より
1947年(昭和22)
- 「書籍 宮城環景」より
1947年(昭和22)
- 「書籍 宮城環景」より
1947年(昭和22)
- 「書籍 宮城環景」より
1947年(昭和22)
- 「書籍 宮城環景」より
1947年(昭和22)
- 「書籍 宮城環景」より
1947年(昭和22)
- 「書籍 宮城環景」より
1947年(昭和22)
- 「書籍 宮城環景」より
1947年(昭和22)

【詩人ノエル・ヌエット】

ヌエット氏は12歳の頃より詩人になることを夢見、学生時代は文芸雑誌を購読して、詩作を試みていました。高校卒業後にパリへ行き、芸術家たちの住まうモンマルトルに居住し、文芸書を刊行している出版社に勤めながら詩作に励みました。文芸誌「レルミターージュ」に詩が掲載されるときに、初めて「ノエル・ヌエット」というペン



詩集 「無限を渴望する心」

ネームを使用しました。音の響きがよいという理由で選んだペンネームで、明治43年(1910)に処女詩集「葉がくれの星」を自費出版しました。翌年には第二詩集「無限を渴望する心」を、大正2年(1913)には第三詩集「荒野の鐘」を出版し、後年、アンリ・クルアールの「フランス文学史」1947年刊のなかで、ヌエット氏を紹介する項では、「無限を渴望する心をして語らせる詩人」と著されています。文学活動にいそんでいた氏ですが、大正3年(1914)にはじまった第一次大戦では召集されて筆を止めることとなり、再び活動を再開したのは大正8年(1919)のことでした。

- 56) 詩集 無限を渴望する心
ノエル・ヌエット 1911年(明治44)

【ペン画スケッチ】

これから三十年以上もの東京滞在のはじまりとなる、シベリヤ鉄道経由の二度目の来日の旅路に夫人は同行しなかったため、ヌエット氏は自由な時間を、東京の姿を描くことに費やそうと考えました。街の風景や、時には人物を万年筆で描き、この趣味を知人で画家でもある石井柏亭氏は後押ししました。ペン画による東京のスケッチは、最初、白水社の雑誌「ふらんす」に発表し、その後絵葉書として売り出されました。氏は殆ど無報酬でしたが、自身の作品が

絵葉書となり、友人に贈ることができるので満足して

いました。また、「ジャパン・タイムズ」に週一回、昭和6年(1931)から三年間に渡り掲載され、掲載後五十枚の作品が画集としてまとめられ刊行されました。

- 57) 画集 東京一外人の見た印象 一集
ノエル・ヌエット 1934年(昭和9)
- 58) 画集 東京一外人の見た印象 二集
ノエル・ヌエット 1935年(昭和10)
- 59) 画集 東京古い都・現代都市
ノエル・ヌエット 1937年(昭和12)



画集 「東京古い都・現代都市」

- 60) 画集 東京 1946
ノエル・ヌエット 1946年(昭和21)
- 61) 画集 東京 1948
ノエル・ヌエット 1949年(昭和24)

【著書】

二度目の来日後、詩集こそ発行しなかったものの、ヌエット氏はフランス語教師という一面の他、精力的に様々な分野で活躍しました。氏は戦争の足音が近づいてくると、輸入できなくなったフランス語書籍の代わりに自ら教科書を作成しました。また昭和17年(1942)には、随筆「日本風物誌」を発行しており、この本で氏は表装や挿絵も手がけています。戦後、昭和25年(1950)に牛込の矢来町に落ち着くと、執筆活動へも積極的に取り組みました。

江戸東京に関する詩やスケッチ、随筆をまとめた「東京のシルエット」昭和29年(1954)や、江戸東京の歴史を自身の視点より紹介する「東京誕生記」昭和30年(1955)を著しました。

昭和32年(1957)には、論文「エドモン・ド・ゴンクールと日本美術」を東京大学に提出し、文学博士号を受けるほか、昭和27年(1952)には小説「愛は神ならず」(第一次大戦前後のパリを舞台とした恋愛小説)を出版するなど、様々な媒体に文章を寄稿していました。

- 62) 書籍 日本風物誌
ノエル・ヌエット 1942年(昭和17)
- 63) 書籍 愛は神ならず
ノエル・ヌエット 1952年(昭和27)
- 64) 書籍 東京のシルエット
ノエル・ヌエット 1954年(昭和29)
- 65) 書籍 東京誕生記
ノエル・ヌエット 1955年(昭和30)
- 66) 書籍 パリ
ノエル・ヌエット 1950年(昭和25)

67) 書籍 巴里～東京 入門フランス語會話

ノエル・ヌエット 1952年(昭和27)

68) 書籍 エドモン・ド・ゴンクールと日本美術

ノエル・ヌエット 1959年(昭和34)

『立太子礼』

ノエル・ヌエット

誇りかな菖蒲は枯れ、眼に美しく
香がばなお芳しい薔薇は色あせる。
あれほど淨い花びらの百合すらも或る夜朽ちる。
だが、われらは見る、常に菊の咲きにおうのを。
(酒井傳六・訳) (一九五二年)

69) スケッチ TAKAO

ノエル・ヌエット 1957年(昭和32)

70) カード

ノエル・ヌエット 戦後

71) 絵はがき

ノエル・ヌエット 昭和初期

72) 新聞 「フランス美術展」によせて

ノエル・ヌエット 1962年(昭和37)

『離日に際して詠んだ詩』

ノエル・ヌエット

わが心は、喜びと悲しみに満つ。
目にみるものはすべてたのしいけれど、
「帰り来よ」といざないやまぬ声にむかいて、
われはいま、
「いまのわが身には敗残悲哀のかげのみふかくして」
と答うるほかにすべなきことぞうらみなれ。
(山内義雄・訳) (一九六二年)

【帰国】

昭和31年(1956)に友人知人や教え子たちから、滞在三十年を記念した御祝いをしてもらったヌエット氏は、次第に滞日時間を意識するようになり、昭和36年(1961)夏に祖国フランスへの帰国を決めました。翌年の春に氏は、京都で開催中の「フランス美術展」を見学し、新聞へ三十六年の滞日を振り返り、詩をエッセイとともに寄稿しました。昭和37年(1962)5月12日横浜発の客船に乗り、日本を後にするヌエット氏は、見送りに来てくれた人たちを前にすると胸が一杯になり、船が動き出すと、離日の選択をした自身との葛藤のため涙が抑えられませんでした。氏のフランスへの最大の土産は、日本人の友情でした。

【帰国後】

帰国後ヌエット氏はパリに居を構えますが、日本と東京は忘れることはありませんでした。昭和40年(1965)5月、八十歳を迎えたにヌエット氏は、東京都から名誉都民に選ばれ、以後毎年誕生日に挨拶状と記念品が、都知事より贈られるようになりました。帰国後も回想文を東京の新聞に寄せる他、日本からの知り合いの来訪、連絡を楽しみにしていました。昭和44年(1969)9月30日、ノエル・ヌエットことフレデリック＝アンジェス・ノエル氏は、パリにて逝去しました。享年84歳でした。

参考

ノエル・ヌエット 近影 73) 自画像
「日本風物誌」より 「東京のシルエット」より
1942年(昭和17) 1954年(昭和29)



おもな参考文献

- 筆と刀 クリスチャン・ポラック
在日フランス商工会議所 2005年
- 思想の日曜日 内藤濯 木耳社 1973年
- 三田文学 第49巻第5号 三田文学会 1959年
- 荷風と市川 秋山征夫 慶應義塾大学出版会 2012年
- 父・西條八十の横顔 西條八束 風媒社 2011年
- 富士ばら 旧制高等学校物語(静高編)
(株)財界評論社 1965年
- その他ヌエット氏著作物

※著作権継承者の御所在が不明等の理由により、事前に利用の確認がとれない資料がありました。
お心当たりの方は、当館まで情報をお寄せください。

GAS MUSEUM がす資料館 企画展ご案内郵送申込について

ご来館ありがとうございます。これから3ヶ月ごとに開催されます、「GAS MUSEUMがす資料館 企画展」のご案内はがきの郵送をご希望の方は、官製ハガキに ①氏名 ②連絡先住所 ③年齢 ④電話番号 ⑤感想・意見 ⑥今後希望する企画展、をご記入の上、下記の住所までお申し込みください。
次回より約1年間、企画展ごとにご案内ハガキを無料で郵送します。

(ハガキ持参で来館された方は、そのまま継続して登録されます)

〒187-0001 東京都小平市大沼町 4-31-25 GAS MUSEUMがす資料館「ご案内ハガキ」係
TEL(042)342-1715 FAX(042)342-8057

《当館のお客様情報(個人情報)は、当館イベント運営に必要な業務を含め、当館に関連する企画、及びサービスのご案内のために使用いたします。》